

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：34301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780434

研究課題名(和文) ハンス・リップス解釈学におけるパトスを基盤とした知識教授理論の研究

研究課題名(英文) The Study of Knowledge Instruction Theory based on Pathos in Hans Lipps

研究代表者

田中 潤一 (TANAKA, Junichi)

大谷大学・文学部・准教授

研究者番号：00531807

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ドイツの哲学者ハンス・リップスの解釈学的論理学における知識生成論を考究し、さらに教授論への応用を行った。知識生成論では、「概念論」と「命題論」を再構築した。概念論では「音」によって物が把握されるプロセスを解明し、命題論では命題が日常的「語り」から生じるプロセスを考察した。ハンス・リップスの思想から、知識が日常的な文脈から生成するプロセスを解明した。また比較研究として日本思想(田辺哲学や真言密教等)との比較研究を行い、「共同体」や「言葉」の意義について解明した。さらに教授法への応用研究では、教材から価値を読み取る「メタファー型」教授法・学習法として取りまとめ考察した。

研究成果の概要(英文)：In this research, I studied the theory of creation of knowledge in Hans Lipps's Hermeneutic logic and applied this theory to the teaching theory. In the study of the theory of creation of knowledge, I newly constructed the theory of "concept" and theory of "sentence". In the theory of "concept", I made clear the process of grasping the things by the "sound". In the theory of "sentence", I found the structure of the creating the sentence by the daily talk".

And, I compared Hans Lipps's philosophy with Japanese philosophy. Especially, I focused on "community" and "language", examining Tanabe philosophy and Shingon Esoteric Buddhism. Finally, I applied this theory to the teaching theory. I named its name "Metaphor Model" in which students acquire a lot of value from the teaching materials.

研究分野：教育哲学

キーワード：解釈学的論理学 知識生成論 音 語り メタファー型教授法

1. 研究開始当初の背景

(1) リップスの認識論

リップスの先行研究は決して多くなく、先行研究もボルノーらの人間学的な立場やハイデガー影響下にある哲学とみなす研究が大半であった。ボルノーらはリップスの意義を認めながらも、乗り越えられるべき思想としてとらえていた。しかし申請時には、リップス哲学が現代的意義を有していると考え、とりわけ「身体」や「他者」に着目し、その独自性を探求しようとした。

(2) 教授法への応用研究

教授理論としては伝統的な「教師 陶冶財 学習者」構造の解体を目指した。近年アクティブラーニング等の新しい教授法・学習法が検討されているが、具体的にどのような方法で行うかが定式化していない。見通しとしてはリップス哲学から、「陶冶財」=「パトスの性状」という枠組みを提示することを目指した。さらに教師観についても、教師は、子どもが世界へと向かう「導き手」であると同時に、共に間主観性を構築する「闘争的同行者」でもであると論じることをめざした。

2. 研究の目的

(1) 知識生成論の構築

まず、これまでほとんど研究されてこなかったハンス・リップスの体系的な研究を行うことをめざした。さらに教育哲学、特に知識教授論としてハンス・リップス思想を再構成することを目的とした。リップスは、人間の認識の基礎をパトスとして捉え、身体を介して間主観性を構築しようとした。さらに他の解釈学的哲学および日本哲学における知識生成論との比較を行うとした。

(2) 教授理論

教授理論として、教師・陶冶財・学習者の新たな関係を考察することを目的とした。単に枠組みの中に思惟を押し込めるのではなく、状況依存的に知識を構築するというハンス・リップスの主張を、教授法に応用しようとした。

3. 研究の方法

4年にわたって研究を行った

(1) ハンス・リップスの知識生成論の研究

(2) 他の哲学者との比較研究

(3) 新しい知識教授理論の提示(メタファー型教授法)

【研究成果の発表】

学会発表、論文発表、総括研究論叢の発刊を行った。毎年学会発表を数回行った。とりわけ海外での学会発表を積極的に行った。最終年度には、総括研究論叢を発刊した。

4. 研究成果

(1) 知識生成論

解釈学的論理学の研究を通して伝統的論

理学を解体し、新たな知識生成論を構築した。とりわけ「概念論」と「命題論」を再構築した。

a) 概念論(「音」と「比較」)

概念論については「音」の役割を解明した。まず物の把握が「音」の次元で行われるとされるが、ここに他者・対話の可能性を見て取った。日常的に埋没している状態では、ジェスチャーによってのみ意志疎通がなされるが(身体的状態)、言葉はジェスチャーに依存しない。物が「音」として把握されることによって、対象把握が身体を離れる。「息」において「音」として発話するということは、他者によって聴かれることを前提としている。「音」によって人と世界とのかわりが、公共的・共同的になる。

本研究では「音」の役割について考究したことが、最大の成果である。論理や認識を生み出す次元を、「音化(おとか)するもの」と名付け、すべての根源と考えた。「物」が「音」を生み出すと同時に、人間の実存も「呼応的な気分」を持ち、お互いに響きあう。この「音化するもの」へと至ったことは本研究の成果であるとともに、今後さらに研究を深めたい。

さらに概念が生成する方法として、「比較」という方法について考察した。人が「物」を把握するとき、「類型」によってのみとらえることができること、そして「物」には「知らせるもの」が存していることを論じた。デイルタイの「比較」概念との比較によりリップスの独自性を考察した。

b) 命題論(「非人称構文」と「語り」)

さらに「命題論」については、知の語り方や非人称構文について論じた。とりわけ非人称構文では、「今・ここ」という直接的所与がまず非人称構文で表現され、そこから「述語化」が起こる。そして述語の対象として「主語」が生じるというプロセスについて解明した。

さらに命題が日常的「語り」から生じるプロセスを考察した。日常的な語りは、「問い」によって亀裂が生まれ、命題化される。リップスが伝統的な主語・述語概念を脱し、主語が自己展開することから主語・述語・繫辞が生じる過程を述べた意義を解明した。主語の内容は隠されているが、主語の内容を明るみに出そうとすることから、「述語」が生じる。主語と述語が生じることによって、命題が生じる。しかし主語・述語関係は固定的ではない。時間によって変化する。命題では時間が一時的に固定化され、中断されている。あくまでもその都度の判断内容にすぎない。

また伝統的論理学の「肯定」と「否定」を、「問い」の観点からとらえなおした。肯定も否定も固定的ではなく、日常会話における「問い」における受け答えから把握しなおした。肯定的主張と否定的主張を生き生きとした形で会話に導入することによって、主語の特性が明るみに出され、述語化されていくと

した。

さらに語りの「トーン」がリップスのロゴス観の根底にあると指摘した。リップスは「ロゴス・セマンティコス」と「ロゴス・アポパンティコス」に分けているが、後者の重要性を述べている。前者は討論やディスカッションのように、事柄を確定しようとする。それに対して、ロゴス・アポパンティコスは単なる会話やおしゃべりを含んでいる。リップスはロゴス・アポパンティコスの自由な在り方を「超越」と名付け、そこにロゴスの本来の姿を見て取っている。本研究ではこのようなリップスのロゴス観を解明することに成功し、ロゴスの在り方を再考する手掛かりを得た。

(2) 比較哲学研究

主に田辺哲学と真言密教を取り上げ、解釈学と比較検討を行った。田辺哲学では「共同体」の側面に着目し、真言密教では「知」に着目した。リップスではパトスを基盤としながらもディスカッションを介して協同性が構築されるのに対して、田辺哲学では利他的な隣人愛が提唱されることを比較検討し、道徳教育に果たす役割を考察した。

また日本思想とりわけ密教思想について考察したが、その「知」の意義を省察した。密教の知がすべての活動を包括する地平・場所であり、「信」を重視する西田哲学や、「行」を重視する田辺哲学とは異なる視点をもたらすことを論じた。これまで解釈学において生動的な知が存することを研究し、知の生動性を論じた。

(3) 教授法への応用研究

伝統的論理学のテーゼを他者理解の文脈から構成しなおし、教授法における知識伝達(教師-陶冶財-学習者)の問題へと応用した。「物」を陶冶財に見立て、教材が持つ意義を論じた。

a) 教授法の4類型化

道徳教育の教授法を形式陶冶・実質陶冶の観点と内面性の陶冶・外面性の陶冶の観点から4類型化したことは、大きな成果である。道徳教育を4領域に分け、道徳的判断力の育成、社会的コンセンサスの形成力、個別の道徳的項目の習得、社会的知識の習得の4つに分類化した。さらにそのそれぞれについて異なる教授法を提示した。は対話・ディスカッション(結論誘導型)、は対話・ディスカッション(オープン・エンド)型、はメタファー型、は知識伝達型とした。道徳教育の方法は一義的に決定されるのではなく、その目的に応じて異なるべきと結論付けた。

b) メタファー型教授法

また本研究では道徳教育における「メタファー型」教授法を考案し、その意義を考察した。この方法では、教材を道徳的価値のメタファ

ー(比喩)とすることによって、児童生徒に価値を感じさせることを目指す。さらに学校生活等の日常的経験も「メタファー」とし、価値を間接的に伝える教授法の構築を目指した。

c) 直観

さらにメタファー型教授法と相即的に「直観」の役割についても考察した。「直観」が基になって知識が習得されるプロセスを省察した。教授における直観を新たに定義し、教師・学習者・教材の関係を新たに考察し直した。学習者が「直観」を元に知識を習得するプロセスを考察した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計14件)

1. 「公教育における仏教精神実現の可能性」田中潤一、平成30年3月『日本仏教教育研究』第26号、査読無、1~15頁。
2. An Unity of Knowledge and Action-From the Standpoint of Shingon Esoteric Buddhism-、Junichi TANAKA、平成30年3月1日[査読有]、『教育思想・教授法研究紀要』第2号、32~42頁
3. 「語り」からの命題の生成 ハンス・リップスにおけるトーンとロゴス」田中潤一、平成30年3月1日[査読有]、『人間形成論研究』第8号、45~62頁
4. 「教師の類型の社会的・歴史的考察」田中潤一、『大谷大学国語教育研究』第5号、査読有、平成30年2月、22~33頁
5. 「解釈学的論理学における方法としての「比較」-「物」、「音」、そして「論理」へ-」田中潤一、平成29年3月1日[査読有]、『人間形成論研究』第7号、68~87頁
6. 「ハンス・リップスにおける論理生成と対話の問題」田中潤一、平成28年11月30日、『ディルタイ研究』27号、査読無、71~84頁
7. 「カリキュラム編成の哲学的基礎づけの一考察-教科選択の根底としての陶冶理念の変遷-」田中潤一、平成28年11月20日、『教育思想・教授法研究紀要』創刊号、査読無、27~36頁
8. 「道徳科の内容と指導に関する考察」田中潤一、平成28年3月23日[査読有]、『人間形成論研究』第6号、29~46頁
9. 「「崇高さ」を育む小学校道徳授業の一考察 教材開発と学習指導案作成を中心に」田中潤一、平成28年3月4日[査読有]、『大谷大学教職支援センター紀要』第4号、27~33頁
10. 「解釈学的論理学における知識生成とその超越的根源」田中潤一、平成28年2月28日[査読有]、『大谷大学哲学論集』第62号、56~69頁
11. 「ハンス・リップス解釈学における言葉

と教育の考察」田中潤一、平成 27 年 8 月 31 日、『関西教育学会年報』第 39 号、査読無、21～25 頁

12. 「田辺哲学における国家論と道徳的行為の考察(2) 他者理解の教育学のために」田中潤一、平成 27 年 3 月 31 日、『日本仏教教育学研究』第 23 号、査読無、152～156 頁

13. 「社会性育成をめざす道徳教育の理論と教材観に関する一考察」田中潤一、平成 27 年 3 月 23 日[査読有]、『人間形成論研究』第 5 号、39～55 頁

14. 「ハンス・リップスにおける対話と論理的思考力育成に関する一考察」田中潤一、平成 26 年 8 月 31 日、『関西教育学会年報』第 38 号、査読無、31～35 頁

〔学会発表〕(計 4 件)

1. 「田辺哲学における国家論と道徳的行為の考察(2) 他者理解の教育学のために」田中潤一、平成 26 年 10 月 18 日、日本仏教教育学会第 23 回学術大会発表(於: 駒澤大学)

2. 「ハンス・リップス解釈学における言葉と教育の考察」田中潤一、平成 26 年 10 月 18 日、関西教育学会第 66 回大会自由研究発表(於: 滋賀大学)

3. The Principle of Citizenship Education and the Role of Teachers in Japan -On the Standpoint of Hermeneutic Philosophy-、Junichi TANAKA、平成 27 年 9 月 15 日、27th Annual JUSTEC Conference (第 27 回日米教員養成協議会年次大会) In Pensacola, Florida, United State of America

4. 「解釈学的論理学における知識習得と「語り方」の考察」田中潤一、平成 27 年 10 月 11 日、教育哲学会第 58 回大会一般研究発表(於: 奈良女子大学)

5. 「ハンス・リップス解釈学における知識生成と超越的視座の考察」田中潤一、平成 28 年 3 月 3 日、2015 年度大谷大学哲学会春季研究会(於: 大谷大学)

6. 「ハンス・リップスにおける論理生成と対話の問題」田中潤一、平成 28 年 7 月 2 日、日本デルタイ協会関西研究会(於: 大阪教育大学)

7. The Theory of Moral Education and Problem of "Metaphor Model" in Japan、Junichi TANAKA、平成 28 年 7 月 7 日、Pacific Circle Consortium 40th (環太平洋コンソーシアム 第 40 回大会) In Saipan, North Mariana Islands

8. 「生の力動性と認識の形成 解釈学的論理学の成立過程の一考察」田中潤一、平成 28 年 9 月 17 日、第 13 回二ーチェ研究者の集い(於: 大阪大学)

9. The Philosophy of Society and Education in Kyoto School -The Theory of Changing the Structure of Society-、Junichi TANAKA、

平成 28 年 10 月 9 日、Interanational Conference on Japanese Philosophy, In Fukuoka(Kyushu University)

10. The Possibility of Teaching the Spirit of Buddhism - From the Standpoint of Tanabe Philosophy-、Junichi TANAKA、平成 29 年 3 月 1 日、American Philosophical Association Central Division Meeting 114th, In Kansas City (Missouri, United States of America)

11. An Unity of Knowledge and Action - From the Standpoint of Shingon Esoteric Buddhism-、Junichi TANAKA、平成 29 年 7 月 28 日、2nd International Conference on Japanese Philosophy, In Taipei

12. The study of the role of intuition in the teaching method and teaching materials、Junichi TANAKA、平成 29 年 9 月 7 日、Pacific Circle Consortium 41th (環太平洋コンソーシアム 第 41 回大会) In Hiroshima

13. The Creation of Teaching Method and the Role of Teachers

-Under the Relationship concerning Educational Policy between Cabinet Office and Japan Business Federation -、Junichi TANAKA、平成 29 年 9 月 17 日、29th Annual JUSTEC Conference (第 29 回日米教員養成協議会年次大会) In the University of Hawaii(United States of America)

14. 「教師の類型の社会的・歴史的一考察」田中潤一、平成 29 年 12 月 9 日、大谷大学国語教育学会 第 5 回研究大会(於: 大谷大学)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)
なし

取得状況(計 件)
なし

〔その他〕
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者
田中 潤一 (TANAKA Junichi)
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号: 00531807

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
なし